

# 宮城牛タンラウンドZoomバージョン報告

令和3年6月19日(土)開催

多くの方に参加いただき、webで情報交換をしながら有意義な時間を過ごすことができました。参加された方々は、小学校関係者が多かったのですが、学生、会社員の方も参加いただき、多角的多面的に体力向上や授業力向上について意見交換をすることができました。ありがとうございました。

参加者 小学校関係者 9人 中学校関係者 4人 高校関係者 3人 大学関係者 7人  
学生 3人 会社員 2人

## ■ オープニング

web開催ですが、zoomの機能を使って、少人数グループで自己紹介タイムを2回行いました。短い時間でしたが、日本全国から参加いただいた皆さんがweb上でつながり、とても楽しい時間となりました。

## ■ 「コロナ禍における体育の指導について」 日本女子体育大学 高橋 修一

感染症予防対策をどのように？どこまで？という皆さんの疑問や不安に対して、高橋先生から、スポーツ庁の動画資料を紹介していただきました。作成担当者がラウンドに参加していただいていたので、直接話を聞いたことも有意義でした。改めてこのネットワークの強みを実感しました。

### ● スポーツ庁HP コロナ禍における体育、保健体育の教師用指導資料

[https://www.mext.go.jp/sports/b\\_menu/sports/mcatetop04/list/jsa\\_00001.htm](https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/sports/mcatetop04/list/jsa_00001.htm)

## ■ 話題提供1 宮城県 体力・地域スポーツ力向上推進事業 大河原小学校での取組

宮城県保健体育安全課 主幹 北條 志伸  
大河原町立大河原小学校 教頭 佐藤 康一  
教諭 鹿野 あい

宮城県教育庁保健体育安全課と仙台大学、大河原町が連携して行っている「体力・地域スポーツ力向上推進事業」について話題を提供していただきました。事業を推進する立場の北條先生、事業を進めてきた佐藤教頭先生、そして、1年目、2年目は学生として参加し、3年目である今年度は教員として同じ事業に携わっている鹿野先生からお話を伺いました。

### ● 事業に関するHP <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/hotai/taiiku2.html>

## ■ フリートーク 子供の体力の現状及び課題の解決策を探る

話題提供後は、宮城県の喫緊の課題である体力向上に向けて、グループセッションをし、各グループから参考になるご意見をいただきました。

### ● 事業について

- ・事業の今後の進展が楽しみです。
- ・民間との連携に興味があります。詳しく話を聞きたいと感じました。
- ・ICTを活用した遠隔地のサポートを行っている県もあると情報を得られ、参考になりました。

### ● 学校や教員の働き掛けについて

- ・体力向上に向けて教員がどのように関わっていくかを考えていくことが大事だと感じました。
- ・運動や外遊びに苦手意識をもつ子供たちが主体的に取り組めるように、取組や授業を展開していくことが必要だと感じました。
- ・主運動につながる準備運動を大切に扱っていく必要もあると感じます。

## ■ 話題提供2 児童が試行錯誤を重ねながら、思考を深める授業づくり

柴田町立槻木小学校 教諭 佐藤 裕太

運動を「する」関わりだけでなく、「みる・支える・知る」といった運動との多様な関わりを意図的に設けた体育の授業を行う必要性を感じたことから、児童が課題解決のために、運動と多様に関わりながら試行錯誤を重ねることで、新たな課題の発見や気づき生まれ、それが体育の授業の深まりにつながると考え実践された授業について話題を提供していただきました。

### ● 実践報告HP

<http://mnavidata.edu-c.pref.miyagi.jp/manage/wp-content/uploads/2021/03/20B0003.pdf>

## ■ フリートーク 体育の授業の現状を探る

話題提供後は、授業における課題の捉えとICT活用についてグループセッションをし、各グループから参考になるご意見をいただきました。

### ● 課題について

- 動画を見て学び合う場では、中心になる子が決まっています。深い学びとなる対話ができるようにすることが必要だと感じています。
- 教えるのか学ばせるのか迷いながら授業を展開しています。
- 子供たちが書きやすいシートの活用がすばらしいと思いました。シートに書き込んだことから課題や課題解決に向けた気づきが得られると感じました。
- 本時のめあて達成のための課題と個人の課題とが異なる場合の授業展開が難しく感じ、解決に向けて、追加発問をしながら気づきを促していくようにしています。
- 個人の課題については、実態に応じて教師がいくつか課題を示し、子供が選択してグループ解決を図るという方法もあります。
- 課題解決に向けた話し合いでは、子供の気づきを教師が整理して解決の支援として返すことが大切です。
- 課題を解決するよう投げ掛けただけでは、よりよい学びが得られません。よりよく学べるように、教師が働きかけて行くことで、体的で対話的な深い学びが実現できます。

### ● ICTの活用について

- 紹介された授業では、子供たちが課題解決に向けて話し合う姿が見られ感心しました。
- ICT活用の難しさを感じています。映像を見るポイントを示して話し合わせる必要があります。
- ICT機器は道具であることを再認識して授業を構築することが大切です。
- ICTの活用は発達の段階に応じて行っていくことが望ましいと感じています。低学年は、動きを客観視して学ぶより、たくさん動くことで安定性と再現性を得ていく段階だと思います。

## ■ 振り返り

桐蔭横浜大学 佐藤 豊

豊先生に振り返りを行っていただきました。いつもどおりスピードと展開の速い振り返り。その中で得たことを2つの視点からまとめました。

### ● Point1 Think globally Act locally

#### 広い視野で多角的多面的に捉え、できることから始めていく

研究者、実践者、行政、学生それぞれの視点にとらわれがちですが、子供たちにとって必要なことは何かを多角的多面的に捉え、それぞれの立場でできることを行っていくことが大切なのだ学びました。まさに、このネットワークは立場の異なる方々と垣根を越えて、親しく対話することができますので、このネットワークで得たことをそれぞれの立場で実践し、それがいつの日か線になり面になっていくことができれば素敵です。

### ● Pint2 無知の知

#### 知らないと言うことを自覚することからスタート

長く教員をしていると、経験値から「こうだろう」「こうだ」と決めて自分の授業スタイルを変えることができなくなってしまうことがあります。子供の実態に応じた授業ではなく、自分の授業スタイルに子供たちを引き込んでしまう悲しい現実もあります。課題解決については「考えさせてから教えるのか」「教えてから考えさせるのか」スタイルありきではなく、子供の実態を見て授業を組み立てていくことが大切だと再確認できました。ICT活用についても、活用することが目的ではなく、体育の授業だからこそ効果を得られる活用方法を探っていきたいと思います。その授業の構築やICTの活用を、体育科ならではの「実践的思考」「瞬時の思考・判断・表現」の高まりにつなげていきたいです。